

## 《醒世姻縁傳》と《兒女英雄傳》の逆序語

石 亮 亮

### 〔要旨〕

中国語語彙の歴史の特徴の一つとして、単音節語から複音節語への大きな流れが挙げられている。そして語素Aと語素Bが複合する場合、ABまたはBAの語序が不安定性となっている。この結果、AB、BA構造が生まれた。これを逆序語と称する。今から近世の代表作品《醒世姻縁傳》、《兒女英雄傳》の逆序語を研究対象にして逆序語の歴史変遷を検討しようと思う。なぜこの二つの作品を取り上げるのか、理由としては、この二つの作品は明清時代では重要な地位を占めるためである。《醒世姻縁傳》は清の初期、北方漢語として代表的な白話小説である。《兒女英雄傳》は清代後期の北京語をもとにして書かれている。現代漢語の前身で、現代漢語とどのように差異があるのかを確認する。この作業は、言語の歴史の変遷、とりわけ北方官話区内の変遷を見る上で極めて重要である。本文は二つの作品に基づいて逆序語の出現状況を調査した。

### 凡例

- 一、底本：《重訂醒世姻縁傳》(同徳堂梓)、人民文学出版社影印本、1994年刊。  
《兒女英雄傳》北京・聚珍堂、光緒4年(1878年)木活字本(影印本)に拠る。  
《古代小説集成》(1994年刊)所収。
- 二、文字：《醒世姻縁傳》と《兒女英雄傳》の文字は、極力底本通りとした。
- 三、見出し語の数字：当該資料における出現回数。

### 《醒世姻縁傳》の逆序語

- [百凡4] (あらゆる、凡て) 接風送行、及至任中、官囊百凡順意、這都不爲煩言碎語。(1.6a.8)
- [凡百30] (あらゆる、凡て) 狄周把劉振白拉到没人的所在、合他說道：遠親不如近鄰、你倒凡百事肯遮庇、倒出頭的說話。剛纔借銀實是沒有不見不借你。(18.7a.3)
- [備完4] (すべてそろっている) 一邊把那八分去的王意番將轉來成了八分不去的主意了。狄希陳緊着備完了祭品、填上搭了席布大棚、擺了酒席。(85.11a.3)
- [完備24] (すべてそろっている) 一面梳洗完備、更了衣、天地灶前燒了昏、家廟裡磕了頭、天也就東方發亮了。(3.3a.10)
- [逼拷7] (強制する) 魏三封又逼拷招來。程大姐受打不過、把在家與他母親八仙過海各使神通的本事、從頭至尾、一一供招、許多穢褻之言、不堪寫在紙上。(72.3b.2)
- [拷逼2] (強制する) 這小獻寶從閉喪以後、日夜出去賭錢、輸了就來拷逼這個後母。(41.5a.4)

- [遍尋 2] (くまなく探す) 偷兒先把那精美的物件卷了一包，又在房內遍尋那銀子不見，放出那兩隻賊眼的神光，在白姑子床上席背後揭開一看，只見牆上三個抽斗，都用小鍍銀鎖鎖住外用床席遮嚴。(65.4a.4)
- [尋遍 1] (くまなく探す) 差人說：各處尋遍沒有，一個小丫頭說他跑進晁奶奶臥房去了，小人進去又尋不着。(20.14a.1)
- [兵士 1] (兵隊) 學生另擇了先生，就如那將官處那叛逆的兵士一樣。若是果真有些教法，果然有些功勞，這也還氣他得過，却是一毫也沒有帳簿。(35.2a.9)
- [士兵 2] (兵隊) 他也不被官兵殺去一個，左冲右擋，左突右攔，他只費了些招架。官兵前進士兵漸退。(99.2a.7)
- [捕搜 1] (捜査して逮捕する) 後來犯事到官，腰裏也還有七八錢銀未使，被應捕搜得去了，兩個驃子變價入官了。(88.8b.5)
- [搜捕 3] (捜査して逮捕する) 因與漢江鬼愁潭一個老蛟相處，結党害人，天丁將蛟誅殛，搜捕餘党，所以逃匿于此。南堤空柳樹中有銀一錠耐謝，可吃海粉一斤脖項如故。(72.3b.2)
- [猜疑 1] (疑う) 晁夫人只恐怕過了月分被人猜疑，直到了十二月十五日晚間，方覺得腰酸肚痛起來。(21.4a.6)
- [疑猜 2] (疑う) 把些衆人心裏胡亂疑猜不曉得是爲甚的。(20.15a.3)
- [材木 1] (材木) 一片仙山上邊滿滿的都是材木。(24.1b.8)
- [木材 4] (材木) 那個魏才因彼此嚷鬧，魏才又不與他這棗木材使，這晚竟又不曾入殮，脹得那死尸肚子就如個死牛一般。(41.4b.1)
- [慘悽 1] (悲惨である) 與晁梁在家庭之內，與晁夫人說起這慘悽的情狀母子兩人，着實動念籌計，要將這催不完的糧米替這些窮人包了。(90.3b.1)
- [悽慘 5] (悲惨である) 老朱問其所以，知道郭氏已經跟人逃走，與了小璉哥些飯吃，合小璉哥到了家中，前後看了一遍，一無所有，冷灶清鍋，好不悽慘。(53.11b.8)
- [承怎 1] = [承應] (引き受ける) 這些請過的鄉紳舉監挨次獨自回席，俱是這班戲子承怎。(5.2b.10)
- [應承 23] (引き受ける) 晁大哥作個東道主人方好晁大舍遂滿日應承。討出一本曆日，揀了十一月十五日宜畋獵的日子。(1.10a.1)
- [促急 6] (慌ただし) 你既拆了我的鞦韆，外邊這景致，可要任我遊耍。前向我進來的促急，還有海棠樓錦官樓兩個去處，我沒曾到得，你送我到那邊走一遭去。(97.7b.7)
- [急促 1] (慌ただし) 今奶奶說，該預備的也都替預備下，省得急忙急促的。(20.8b.4)
- [簇擁 2] (ぐるりと取り囲む) 兩個快手一人守候一人跑去喚了兩頂有輿小轎簇擁兩個道婆坐在裏面。(96.3a.9)
- [擁簇 1] (ぐるりと取り囲む) 狄希陳換了青衣，單完，惠希仁擁簇着，跟進投文牌去。(81.13b.10)
- [荅報 1] = [答報] (報いる) 一個道士領過了齋供說道：擾了施主厚齋無可荅報。我有一個好方相送，你可將娃兒斷下的臍帶，用新瓦兩片合住，用炭火煨煉存性，減半加入上好明淨硃砂，研爲細末，用用芎，當歸，甘草各一錢，煎爲濃汁，將藥末陸續調搽乳上，待小兒燕下，以盡爲度，大便黃黑極臭稠屎，渾身發出紅點，一生不出痘疹即出亦至輕。(49.6b.4)
- [報答 1] (報いる) 只是想說：老天爺可憐見的生了這個孩子，使晁家有了後代，可怎樣報答天地才好。(21.5b.2)

- [怠慢10] (粗略にする、冷淡にする) 蘇錦衣道: 胡相公一路都仗賴你兩個挈帶, 家中管待不周, 莫怪怠慢。(5.9a.3)
- [慢怠1] (粗略にする、冷淡にする) 大凡奴僕待人, 都看主人的意旨, 主人沒有輕賤人客的心, 家人便不敢明慢怠之意。(92.7a.5)
- [動轉3] (動かす) 問他不能做聲, 推他不能動轉, 竟像是被人釘縛住的一般。(93.10b.7)
- [轉動2] (動かす) 如法調灌, 狄希陳漸漸的眼睛轉動, 腹內通响, 吐了許多痰涎, 漸覺省得人事。(95.1b.6)
- [斷離7] (離縁する) 太守道: 如此毒物, 你守在跟前, 這真是伴虎眠一般。天下沒有這等惡婦尚可姑容之理。你補一張呈來, 我與你斷離了他去, 遁解了回家與你除了這害, 你心下何如。(98.2a.8)
- [離斷2] (離縁する) 因此太尊曉得, 所以說從古至今兇惡的好人七多從沒有似你這般惡過狼虎的, 所以差了人逼住狄友蘇叫他補呈, 要拿出你去, 如你的極刑, 也要叫你生受, 當官離斷解你回去。(98.13a.3)
- [躲藏9] (隠れる) 又道了一日, 晁大舍把一本報後邊空紙內故意寫了个廠衛的假本, 說訪得胡君寵, 梁安期躲藏通州知州晁思孝衙內, 請旨差人捉拿。(15.7b.5)
- [藏躲3] (隠れる) 不曾剩一毫人欲之私。幸得人口藏躲得快, 所以到都保全不曾傷損了一个。(11.14a.6)
- [放鬆12] (緩める) 每人也是五十, 交付捕官, 發下牢固監候, 听另牌提審不許死又不許放鬆。(12.4b.6)
- [鬆放8] (緩める) 禁子稟說: 此係晁鄉宦的兒婦。因鄉宦差人分付, 小的們不敢把他難爲, 所以只得將他鬆放。(14.2b.1)
- [奉敬3] (差し上げる) 又想吃甜酸的果品, 狄希陳尋到刑部街上, 買了蜜梅奉敬。(79.12b.6)
- [敬奉2] (差し上げる) 但前日兒子進學送他的那謝禮, 原不應與他那許多, 我一爲實是怕他無賴, 二爲敬奉先生不嫌過厚, 不料被他大罵一頓將帖撩出門來。(42.1b.5)
- [付托2] (委託する) 你剛纔一番說話, 又甚是有理, 我倒有了兒子, 可以付托, 得以出家。(93.2b.8)
- [托付4] (委託する) 晁夫人過了首七閉了喪, 收拾封鎖了門, 別的事情盡托付了季春江, 晁夫人進城去了。(20.9a.6)
- [何如49] (どのようなか) 禹明吾復回, 密向晁大舍耳邊問道: 所言何如。(4.6a.8)
- [如何136] (どのようなか) 且說晁大舍隨了父親到任, 這樣一个風流活潑的心性, 闕在那縣衙裡邊, 如何消遣。(1.6a.10)
- [歡喜46] (喜ぶ) 狄實梁見兒子長了學問, 極其歡喜, 他母親又說虧了他擇師教子, 所以得到這一步的工夫。(37.2b.6)
- [喜歡90] (喜ぶ) 他作揖稱謝, 甚有矩度。連夫人亦甚喜歡, 就托了程樂宇作伐。(37.4b.1)
- [禍福4] (幸せと災い) 有那等愚人信他哨哄, 一些聽他不出傳揚開去, 都說是汪相公還魂顯聖, 做了天下遊奕大將軍, 就是他媳婦魏氏擎着, 有問禍福的, 其應如响。(42.7b.7)
- [福禍1] (幸せと災い) 這侯小槐原是个清門淨戶的人家, 雖然擎了邪神, 誰就好來他家求神問卜。他又附魏氏叫他掛出招牌, 要與人有報說休咎, 也只得依他掛出招牌。未免也就有問福禍的人至。(42.6b.10)
- [焦心1] (焦っている) 這都不是焦心的事么, 你可還笑他。(83.14a.5)
- [心焦11] (焦っている) 等到第四日, 狄員外就像臥不定的兔兒一般, 走進走出, 甚是心焦。(67.1a.10)

- [濟救1] (救済する) 他說與其被外人吃了，不如濟救了自己親人。(31.2b.4)
- [救濟2] (救済する) 這秋成的時候尚且如此，若到了冬春，這些飢民若不設法救濟，必定半个不存。(31.6b.6)
- [簡搜1] (探す) 忽然想起孫蘭姬的眠鞋，因起來忙迫，遺在床裏邊褥子底下，不會帶在身边，恐怕被素姐簡搜得着，這與那汗巾又不相同無可推托其禍不小。(52.3a.9)
- [搜簡11] (探す) 大尹叫把這些婦人身上仔細搜簡。(20.15a.1)
- [攪擾5] (邪魔をする) 狄員外道：不敢。這一定是童奶乚，請作揖。諸凡仗賴，只是攪擾不安。(54.2a.4)
- [擾攪1] (邪魔をする) 晁大舍出來相見，單只謝禹明吾的擾攪，禹明吾却不謝謝晁大舍的作成。(10.12b.10)
- [解勸17] (宥める) 然雖是說不盡得了夫人解勸的力量，其實得了那跨竈幹蠱的兒子不在跟前。(15.3b.10)
- [勸解10] (宥める) 白姑子就待走，狄希陳望着白姑子擠眼鈕嘴，叫他別要回去，勸解素姐替他做个救命星君。(64.10b.3)
- [緊要2] (重要である) 住了三日，胡無翳收拾錫杖，衣鉢，棕帽，清陈，日持的經卷，跟了一名行童，將寺中緊要事件，并晁夫人所發前常平資本，併見在積聚倉糧俱一一交付晁梁代管。(93.7b.6)
- [要緊86] (重要である) 至二十五日，端了一扶手銀子，果狀到了廟上，買了些没要緊的東西，回到京中宅子，住了七八日，別了珍哥仍回通州去了。(6.5b.6)
- [今古3] (昔と今) 兄弟同拔夫並穴，赤綆紫荊相結。恩義俱関切今古不渝如石鉄。(74.1a.2)
- [古今9] (昔と今) 一个秀才叫是麻從吾，不要說那六府裏邊教他第一个没有行止，只怕古今以來的歪貨也只好是他第一个了。(26.5b.2)
- [淨洗5] (きれいに洗う) 次早起來，淨洗了面，細細的搽了粉，用靛花擦了頭，綿胭脂擦了嘴，戴了一頂青緯羅瓢帽。(64.6b.6)
- [洗淨7] (きれいに洗う) 自從艾前川去後，狄希陳那瘡疼的見鬼見神，殺狼地動的叫喚，只得將膏藥揭去末藥洗淨。(67.1a.7)
- [惧怕8] (怖がる) 那一時，別人看了計氏到也是尋常，晁大舍有那計氏即是天香国色。計氏恃寵作嬌，晁大舍倒有七八分惧怕。(1.7b.3)
- [怕惧10] (怖がる) 老婆了說：這一定倒在那裏睡覺，被人把醇子都拿將去了尋着他老實打他幾下也叫他知有怕惧。(57.5b.1)
- [看驗2] (調べて観る) 喜是有了這套衣服拿到家中，但得看驗中意，完了一天大事是誠可喜。(65.9b.8)
- [驗看13] = [驗看] (調べて観る) 差人尋了地方保甲來到驗看了。(13.6b.9)
- [攔阻17] (阻止する) 狄希陳若是個有正經的人，把那義正詞嚴有綱紀的話攔阻他，難道他會捕翅飛去不成。(68.8a.8)
- [阻攔2] (阻止する) 你是知道的您必欲阻攔。(78.2b.6)
- [理料4] (処理する、始末する) 又皆淨所在另搭一棚安頓家下女人，好理料厨子置辦品肴。(72.1b.3)
- [料理33] (処理する、始末する) 晁大舍次早起身，便日日料理打圍的事務，要比那一起富家子弟分外齊整，不肯與他們一樣。(1.11a.4)
- [離脫1] (離れる) 狄希陳又不能離脫，都是歡喜中又有這不遂心的事正也費處。(99.9a.4)
- [脫離6] (離れる) 要脫離他開去，明見他把那張喫飯卓端在那描斗卓邊，幫成一處。(45.9b.10)

- [良善5] (善良である) 説起狄賓梁良善務本。像那還楊春的銀，送汪爲露的助喪，種乚的好事這都是人所難能的。(44.6a.3)
- [善良2] (善良である) 兼那勢宦強梁，欺暴孤弱，那善良也甚是难过得緊。(12.3b.9)
- [鬧熱1] (賑わい) 那時正是六月長天，餓得肚裏熱騰騰的火起。那旱石橋下到是不鬧熱所在，賣水菓的，賣大米水飯的，一行兩行的挑過。(15.9a.1)
- [熱鬧8] (賑わい) 呂祥跟了童奶奶，駱校尉回京駱校尉托名呈換文憑，日逐支調呂祥住在那都城熱鬧的所在，又離了主人。(86.1a.8)
- [難爲55] (困らせる) 其實這幾畝地早些退出還了他，叫他把那紙價上完了，若是那兩個差人不要去十分難爲他，他或者乘興而來，興盡而返，捏着鼻子捱一鍾也是背的。(10.14a.1)
- [爲難1] (困らせる) 說道：別的我倒也都不爲難。(61.7b.6)
- [暖和5] (暖かい) 那年立的春早，天又暖和，連牆都泥得乾淨。選了正月二十六日入學的吉日，請程樂字到館。(33.10a.9)
- [和暖2] (暖かい) 那按院他原籍湖廣的地方，天氣和暖，交了正月，過了二月以後，麥子也將熟了滿地都有野菜，儘就可以度日。(31.7b.3)
- [女婦1] (婦女) 却說童寄姐自從跟了狄希陳往西川任上，當初在家，他的母親童奶乚雖不是甚麼名門大族的女婦，他却性地明白，心不糊塗。(91.1a.9)
- [婦女58] (婦女) 凱旋回到城內，還都到了晁家宅上。珍哥同一班婦女自回後面去了。(1.14a.6)
- [陪奉1] (お供をする) 明水鎮住的鄉紳，舉監，秀才，耆老都穿了吉服衣巾，先在興工處所迎接陪奉縣官。(52.12b.3)
- [奉陪2] (お供をする) 趙杏川方無可不可的收訖。狄員外又盛設送行，請了陳少潭，相棟宇崔近塘一夥親友奉陪，盡歡而散。(67.10b.8)
- [齊整3] (きちんと整えている) 晁大舍叫厨子整了三四桌酒，在留春閣下生了地爐，鋪設齊整，請那一班富豪賞雪。(1.9b.3)
- [整齊2] (きちんと整えている) 却說晁夫人一百零四歲的壽辰，興旺人家，那個不來趨奉。又恭逢這般盛黃，不要說有整齊酒席款待，就是空來看乚，也是平生罕見的奇逢。(90.8b.8)
- [氣力13] (力) 那個舒秀才感李大郎的相待，恨不得把那吃妳的氣力都使將出來。(23.9b.4)
- [力氣4] (力) 素姐住了罵，說道：你好讓呀，人的兩隻力氣攥了的手，你使力氣攥人的。(89.11b.10)
- [氣悶4] (鬱陶しい) 却說珍哥這一夜脹得肚如鼓大，氣悶得緊，真是要死不活。(4.12a.8)
- [悶氣8] (鬱陶しい) 打一日，我也要去走一遭，散散我的悶氣。(1.10b.1)
- [氣性2] (性質) 這也怪不的孩子，他姓龍的長，姓龍的短，難說叫那孩子氣性。我待不見他那孩子往偕家來哩。我了叫小冬哥提着姓相的罵。(48.10b.4)
- [性氣13] (性質) 性氣不好，凌虐丈夫，轉世還該托生狐狸。(30.12a.8)
- [氣血6] (氣と血液) 呂德遠稟道：老爺身上不安正是氣血傷損的時候，極要寬心排遣不可着惱使氣血凝滯不行。(96.6b.5)
- [血氣5] (氣と血液) 四他服了二十劑十全大補場終是少年血氣旺的人，調養午壯壯實實的个人。(67.10a.8)
- [氣運2] (運命) 大開親戚門的氣運，約略相同，童童買賣興頭，誰知童奶奶的父親駱佳才也好時運。(70.3a.1)

- [運氣 5] (運命) 但不知童七運氣何如，將來怎生結束，且看後回再說。(70.14b.1)
- [牽罨 1] = [牽掛] (氣に掛ける) 再說薛夫人因素姐蹣蹩作怪，又大吃燒酒雞蛋，心中甚是牽罨，叫了薛三省娘子來。(45.12b.8)
- [掛牽 1] (氣に掛ける) 不料晁家的男子婦女倒都是沒有掛牽的。(19.7a.1)
- [錢價 2] (値段) 那糶糧的人已是應允。程謨往裡面取升，這劉恭的老婆對了那糶糧的人把嘴扭兩扭，把眼擠一擠，悄ヒ說：他慣賒人的東西不肯還人的錢價，要得緊了還要打人。(51.3a.8)
- [價錢 19] (値段) 那日廟上賣着兩件奇異的活寶，圍住了許多人看，只出不起價錢。(6.7b.4)
- [淺深 3] (分別、ほど) 這素如若是個通人性的東西，乍到的時節，也略看個風熱，也要試試淺深，再遲你那威風不遲。(95.8a.7)
- [深淺 5] (分別、ほど) 南瓜是新來晚到，不知深淺，乾教他打了兩下，不該叫人看的所在，都叫他看了個分明，含忍了不敢言語。(91.5a.4)
- [且暫 4] (暫く) 宗師說：與他地的時候，我還在那邊。你且暫回家去，待四五日來看案。(46.2b.4)
- [暫且 5] (暫く) 他還有些不信，自己走到他家，方知是實。過了一晚，跟了母親回去。姑子也暫且回家，約在十月初四日差人來接他。(40.15a.10)
- [人犯 31] (罪犯) 該東昌府理刑推官將氏等一干人人犯提到官，逐一隔別研審前情明白。(13.4a.8)
- [犯人 10] (罪犯) 別的解子們都說張雲趙祿的不是：這是人命的犯人，你沒的不叫他阿屎。這叫他阿在這裡甚麼道理。(51.5b.5)
- [人客 5] (客) 那人丈人家因人客不齊，上得座甚晚。(29.7a.5)
- [客人 16] (客) 有兩個過路的客人過了橋走上堤來，進到舖中坐下。(23.5b.3)
- [人衆 15] (大勢の人々、皆) 人衆擁擠的時候，你這少婦爲甚不由別路。你倒是上廟燒香這還是行好其情可恕。(74.9b.6)
- [衆人 362] (大勢の人々、皆) 衆人沒了晁思才也就行不將去了陸續溜抽了開交。(53.4a.10)
- [日逐 19] (毎日) 晁源也使日逐料理出喪的事體，備了一分表禮，三十兩書儀，要求胡翰林的墓誌，陳布政的書丹姜，副使的篆蓋，俱收了禮應允了。(18.11a.2)
- [逐日 12] (毎日) 歇了兩日，逐日擺酒請鄉官，請舉人，請監生，俱來貫新到的戲子。(5.2b.7)
- [沙泥 2] (土砂) 一日，放了晚學，走到那山溪裏邊洗澡，遠ヒ看見程樂宇走到，他把河底裏的沙泥帶頭帶臉塗抹得遍身都是。(33.14a.9)
- [泥沙 1] (土砂) 你洗澡便了，却爲何滿身都塗抹了泥沙。(33.14b.1)
- [傷重 3] (重い傷) 外邊一個上宿的書辦隔窓稟道：老爺被打傷重，小人們在外邊暗數，打過六百四十棒椎。(95.12b.6)
- [重傷 4] (重い傷) 程樂宇也隨即赴縣遞呈。縣官驗得他面目俱有重傷，又久曉得汪爲露的行止，都准了呈子，差了快手拘人。(35.12b.5)
- [神鬼 10] (鬼神) 若是叫他曉得，自然當不起的，還好算得手段。這事神鬼莫測的事，泊他甚的。幫在小人身上老爺壯了胆只管做去。(96.7b.8)
- [鬼神 20] (鬼神) 姐ヒ沒怪，我看你如此狠惡，天地鬼神都是震怒，特遣鷹神拿你這斷在懺悔不得的了。(63.11a.8)
- [識見 9] (見識) 他平日相厚那些人又都不是那老成有識見的人，脫不了都是幾個暴發戶初物犢兒。(9.13b.5)

- [見識53] (見識) 晁大舍道：我合你夫妻一場，也有好來，你休合我一般見識。(11.7a.4)
- [終始1] (始めから終わりまで) 把這墳上庄子留看，偕兄妹二人攪計。你爽利告了衣巾，全了終始。(93.2b.4)
- [始終5] (始めから終わりまで) 這白姑子費了多少心思得了這些外物，把他一棒敲得乾淨，豈有輕饒寬放之理。所以師徒兩人同進城去，在捕衙遞呈。後來呈雖遞，准這賊始終不曾拿住。(65.7a.3)
- [事成4] (事を成し遂げる) 只是老爺要假小人便宜行事只管事成。(5.4a.2)
- [成事3] (事を成し遂げる) 直待回家，畢竟奶ヒ許了方敢合你成事。你也不可冒失休說在千里之外奶ヒ不曉的。(50.13a.1)
- [壽長1] (寿命が長い) 今年九裏這倆冷天，只怕你老人家就是壽長，也活不成。(92.6b.1)
- [長壽2] (寿命が長い) 誰知好人不長壽，這晁近仁剛七活到四十九歲，得了个暴病身亡。(53.3a.2)
- [死生2] (死と生) 就是這魏氏，你雖與他夫妻不久，卽是娼婦子弟暫嫖兩夜，往ヒ有那心意相投死生契結的。(29.2b.10)
- [生死11] (死と生) 這個楊古月，你也該自己付量一付量，這個小產的生死是間不容髮的豈是你撞太歲的時候。(4.8b.7)
- [損折5] (賤价抵換) 計氏笑了一笑，說道：誰家的好老婆損折了衣裳首飾換嘴吃。(3.8b.4)
- [折損4] (賤价抵換) 兩土官再三辯說：先是小人挑激起鬻官兵卒臣止是退避免禍，並無阻拒之情。見今俱在山中屯住，並不敢致折損一人。(99.7b.5)
- [添增1] (加える) 越發祈得天昏地暗，沙捲風狂，米價日日添增，水泉時ヒ枯涸。(93.12a.9)
- [增添4] (加える) 原只該六十歲的壽限，每ヒ增添，活了一百五歲。(93.9a.9)
- [夜半2] (真夜中) 却說那片雲，無翳這夜半的時節，見一个金盔金甲的神將，手提了一根鉄杵，到他兩個面前。(17.3b.5)
- [半夜48] (真夜中) 第二回到了這半夜，一片聲敲得門響。(2.5a.8)
- [夜晚22] (夜) 又把晁住媳婦安排到裏面，叫晁住日日在監裏照管夜晚，還到外而看家。(14.11b.3)
- [晚夜4] (夜) 若與你没有緣法，你就在他跟前一遭一遭的走過，不是風雨就是晚夜。(79.3b.1)
- [意旨4] (意図) 大凡奴僕待人看主人的意旨，主人沒有輕賤人客的心，家人便不敢明慢怠之意。所以上下都像晁夫人在世一般。(92.7a.4)
- [旨意12] (意図) 起先那些官員个个都要候了旨意下來，致他於死，後見聖恩寬宥，經過聖上處分，反不動手他了。(30.9a.9)
- [引導3] (導く) 擺着十二對五色彩旗，上面都是連春元做的新艷對聯，樂入鼓手，引導前行。(38.13a.2)
- [導引8] (導く) 叫你本官也不必多差人役迎接，只是你兩個人迎至半路，導引前行不可有悞。(99.7a.5)
- [友朋1] (友達) 所以靠山也不必甚麼着已的親戚至契的友朋。(94.2a.1)
- [朋友44] (友達) 程先生考過無事，也便不在下處閑坐或是去尋朋友，或是朋友尋他，未免也在各處閑串。(38.8b.8)
- [餘剩2] (余る) 高相公見烏大王與那班群妖諸怪絕無蹤影，桃明了燈燭，將那餘剩的杯盤從新的大爵，一面問那女子的來歷。(62.3b.7)
- [剩餘1] (余る) 那時年成又好，百姓又不像如今這般窮困，一莖一粒也沒有拖欠，除了正數還有三四千金的剩餘。(17.4b.9)
- [愿心9] (願い) 隨先使家人到家堂內燒香謝罪許愿心。(3.7b.3)

- [心願 1] (願い) 你自已發心願與他爲子報恩，這是你的善念。出家人打不的誑語，你若不實踐了這句說話。(2.2b.9)
- [土地 25] (土地、田畑) 約定大家俱要粧扮得齊整些，像個模樣。卯時俱到教場中取齊發腳也要得一副三牲祭祭山神土地，還得一副三牲祭旗。(1.10a.4)
- [地土 19] (土地、田畑) 有那中戶，人家情愿將自已的地土，自已的房屋獻與晁大舍充做管家。(1.4b.10)
- [往來 34] (行き来する、付き合う) 又着人往來說合，媒人打夾帳，家人落背弓陪堂講謝禮，那羊毛出在羊身上。做了八百銀子將珍哥娶到家內。(1.9a.4)
- [來往 44] (行き来する、付き合う) 晁大舍見他不稱大爺不說話，不稱晚生不開口，又說合許多大老先來往，倒將轉來又有幾分奉承他的光景，即分付家人道：後邊備酒。(4.4a.2)
- [凶吉 1] (吉事と凶事) 青龍白虎同爲伴凶吉災祥未可知且看後來怎的。(14.12b.9)
- [吉凶 4] (吉事と凶事) 況又不是悖謬，其實匡人圍的甚緊吉凶未料，夫子且說大話。(38.3b.4)
- [儂積 1] = [儂積] (少しずつ蓄える) 但這樣人得了這樣利，源得的不難，看得也便容易，這手過來，那手撒去，也不大有甚麼儂積。(88.8a.8)
- [積趨 2] = [積儂] (少しずつ蓄える) 農忙時月與人家做些短工，積趨了幾兩銀子，定了一个庄戶人家周基的女兒周氏，擇了三月十五日娶親過門。(28.1a.8)
- [葬埋 6] (埋葬する) 縣尹道：把兩個頭都交付與他，買棺葬埋。(20.5b.7)
- [埋葬 4] (埋葬する) 用了四百買了一口蘇皮棺材裝在裏面，扛抬埋葬。(92.14a.10)
- [找尋 14] (探す) 劉振白將剩的十四兩銀子，被原差要了二兩，僱人叫招子找尋逃走的婆娘，又四散訪緝那拐銀的兒子。(82.14a.10)
- [尋找 6] (探す) 你且在這裏殿簷底下坐了等七，或者跟你的那人就來尋找也是有的。(86.9b.3)
- [折挫 4] (押さえつける) 往日恁般折挫，偏不生氣害病，晦氣將到身上偏偏的生起氣來。(82.6b.1)
- [挫折 1] (押さえつける) 這恰似千載奇逢的一般，只是當不起一个內官王振擅權作惡，挫折的那些內外百官，那一个不奴顏婢膝的，把那士氣喪盡。(12.1b.7)
- [住歇 7] (休む) 留差人在衙內住歇，收拾了一二日，同差人投見了法司，收入刑部監內，先委了山東道御史，山東司主事，大理寺副會問。(17.9a.1)
- [歇住 5] (休む) 却是則天畢命之了一千人只得俱在路上歇住了脚差人尋了地方保甲。(13.6b.9)

### 《兒女英雄傳》の逆序語

- [安身 18] (身を置く) 安太太租了向間飯店，暫且安身。(3.1a.8)
- [身安 8] (身を置く) 十三妹心中納悶說：妹子，你如今禍退身安，正該歡喜，怎麼倒發起怔來了。(9.9a.2)
- [安心 5] (心が落ち着く) 列公，且耐性安心，少煩忽燥。(16.17a.8)
- [心安 6] (心が落ち着く) 安老爺道：非我合你客氣，你大兄弟也送了幾兩銀子，再有個二三千金便夠了。這種東西多也無用。再與者受者都要心安。(13.12a.4)
- [包括 1] (含む) 公子此時一團興致，覺得這事倚馬可待。那知一想，纔覺長篇累牘，不合體裁，三言五語，包括不住，一時竟大為起難來。(37.32a.9)
- [括包 1] (含む) 只可惜他昧了天性人性，壞了兒女心腸，送了英雄性命，弄到沒去處去。這其中還括包一個出奇的奇人作出來的樁出奇的奇事，並且清寒不是無根之談。(18.4b.10)



- [保管 1] (きっと、間違いなく) 這件事交給姐姐保管你稱心如意。(9.12b.7)
- [管保 15] (きっと、間違いなく) 我一直送你們過了縣東關，那裡自然有人接著護送下去，管保你們老少四口兒一路安然無事，這算完了我的事了。(10.10a.8)
- [報答 6] (報いる) 他安鄧兩家都受過十三妹從前相救之恩，正想報答。(17.1a.6)
- [答報 15] (報いる) 此時我倒不能說那些客套虛文，只是我安驥有數的七尺之軀，你叫我今世如何答報。(9.5a.4)
- [備齊 1] (揃っている) 鄧九公又另外替姑娘備了賞賜。少時，車輛早已備齊，男女一行人都向褚家莊而去。(21.25a.7)
- [齊備 6] (揃っている) 姑娘只當還照昨日一樣走法，及至同舅太太坐車出來一看，但見大槓鮮明，鼓樂齊備，全分的二品執事，擺得隊伍整齊，旗旛招展。(23.10a.3)
- [避禍 2] (災いを避ける) 那避禍的，縱讓千萬百計的避開，莫認作自己乖覺，究竟立腳不穩安身不牢。(14.2b.10)
- [禍避 1] (災いを避ける) 至於禍福，有個天在，注定的禍避不來非分的福求不到。(14.2b.10)
- [斥駁 3] = [斥駁] (反駁する) 夫子未嘗斥駁子路，然則夫子明明道得句吾與點也又何以見得是斥駁會暫呢。(39.39a.2)
- [駁斥 6] (反駁する) 即如這章書，撥情度理，我以為你家四位先賢在夫子面前侍坐言志時節，夫子正是賞識三子，並未嘗駁斥子路。(39.36b.1)
- [盜賊 1] (強盜) 恰好一日山東巡撫奏報該省學政因病出缺，聖意正因山東地方連年盜賊出沒，騷擾地方想要用一個輕年壯志的旗員去振作一番，卻又一時不得其人。(40.69b.10)
- [賊盜 1] (強盜) 這一路是賊盜出沒的地方，下了店不妨，那是店家的干係走著須要小心。(3.18a.8)
- [弟兄 30] (兄弟) 那光景像是親弟兄。這班人倒不頑笑，只見他把那兩個戴因秋的讓在正面，他三個倒左右相陪。(32.10a.9)
- [兄弟 39] (兄弟) 哥兒兩個，兄弟張樂天，是學裡的秀才，去年沒了，剩了我一個人。(7.11b.2)
- [度過 2] (過ごす) 偏現在又得出去謝幾天客，這一向忙完了，度過殘冬就是年下。(30.17b.9)
- [過度 1] (過ごす) 他兩口兒卻仍照居鄉一般辛勤，擰節著過度，便覺著那日月從容之至。(32.27b.10)
- [何如 28] (どのようか) 太太，你只看我同玉格，一個險些兒骨肉分離，一個險些兒身命俱敗，今竟何如。(14.3a.4)
- [如何 107] (どのようか) 如今有了玉格這個孩子，看去還可以望他成人，倒不如留我這點精神心血，用在他身上，反愴成就起來，倒是正理。太太，你道如何。(1.5b.9)
- [歡喜 69] (喜ぶ) 這回書接著上回，表的是安公子回到店裡，把安老爺的話回明母親，並上覆岳父岳母大家自是異常歡喜。(13.1a.4)
- [喜歡 16] (喜ぶ) 他穿好了花兒便坐在那小杌子兒上，啐著煙灰兒說起昨日老爺太太怎麼喜歡，又說這都是爺奶奶的孝心。(38.2b.2)
- [見聞 1] (見識) 安老爺便說是有些瑣事，便把他子塗中結親一事畧提了幾句，只是不提那番駭人見聞的話。(13.18b.8)
- [聞見 1] (見識) 你只看朝廷上那班大小臣功，若果然人人心裡都是一團人情天理，凡是國家利弊所在，彼此痛癢相關大臣有個聞見，便訓誡屬。(33.3a.3)
- [解和 2] (宥める) 忽然的被一個驀生人當面叫破，他如何不疑。難保不無一場大作。果的如此，此番

卻得仗老兄你解和了。(16.23a.6)

[和解2] (宥める) 這等不妨便是他有甚話說有我從中和解呢(16.22b.4)

[勸解2] (宥める) 說著說著，那個氣好比煙袋換吹筒，吹筒換鳥鎗，鳥鎗換礮，越吹越壯了。自己待要開言解勸，聽得張姑娘纔說了一句。(36.9b.10)

[勸解4] (宥める) 太太也覺心中頗有所感，忍淚含笑勸解說：老爺這下該喜歡，怎麼倒傷起心來呢。(1.9a.9)

[靜坐6] (静かに休む) 及至到了酒闌人散，對著那燈火樓台，靜坐著一想，就覺得像有一樁無限傷心的大事，兜的堆上心來，這十三妹心裡，此刻便是恁般光景。(18.23a.9)

[坐靜1] (静かに休む) 我想這是姐姐坐靜的地方兒，我就出了個主意，告訴外頭畫了這麼一張，可不知我甚麼人畫的，那對子就是纔說的那個屬馬的寫的。(27.15a.2)

[精通1] (精通する) 他家世代相傳，專門精通周易河洛地理，安老爺家這塊墳地就是他乃翁在日看定的。(23.13b.2)

[通精2] (精通する) 甚麼事兒他全通精兒還，帶著挺擗挺橫，想沾他一個官板兒的便宜也不行。(4.5b.9)

[老父4] (お年寄り) 何況於我縱說我隨了老父朝夕奉養，比他強些。(21.6a.1)

[父老1] (お年寄り) 那時大事不成，羞見江東父老，他便不回來了。(16.9a.2)

[难为26] (困らせる) 姑娘道：難為你這等想得到，只是歸著屋子可算你悞了。不信你看，我一個人兒一早的工夫都歸著完了。(17.5a.3)

[为难71] (困らせる) 十三妹也沒工夫合他掉那酸文，說道：你且不要忙。如今你們為難的事是都結了，我此刻卻有件為難的事要求你諸位。(9.7a.7)

[齊整4] (きれいにそろっている) 下公子跟著老爺飽殮一頓，到了外面，筆硯燈燭早已備得齊整。(34.2b.2)

[整齊2] (きれいにそろっている) 姑娘只當還照昨日一樣走法，及至同舅太太坐車出來一看，但見大槓鮮明，鼓樂齊備，全分的二品執事，擺得隊伍整齊，旗旛招展。(23.10a.4)

[氣忿1] (腹を立てる) 請太老爺吩咐地保遞上一張報單，就報說本廟僧人窩留婦女，彼此妒奸，那陀頭一時氣忿，把婦人用刀砍死，胖大和尚見砍了婦人，兩下爭競，用棍將陀頭額門打傷，致命氣絕，他自己畏罪情急自戕。(11.6a.4)

[忿氣1] (腹を立てる) 那穿紅的女子本就一腔子的忿氣，聽這婦人說的這等無恥不堪，那裡還忍耐得住。(7.16a.6)

[氣力10] (力) 那華忠應了一聲進來，只見他臉上發青，摸了摸，手足冰冷，連說話都沒些氣力，一會價便手腳亂動，直看脖子喊叫起來。(3.13b.9)

[力氣1] (力) 那四個長工時頭，有一個原是抬槓的團頭出身，只因有一膀好力氣，認識鄧九公。(17.6b.9)

[氣運4] (運命) 大抵那運氣循還自有個消長盈虛的定數，就是天也是給氣運使喚著，定數所關天也無從為力。(3.2a.1)

[運氣2] (運命) 你看這可不叫作運氣來了崑崙山也擋不住麼。(40.71b.8)

[日後38] (将来、後日) 慢講照這樣辦法沒有差錯，就便有些差錯，老爺日後要怪就算你我一同商量的都使得。(3.5b.5)

- [後日16] (将来、後日) 他們看奴才這個樣兒，說給奴才作兩件衣裳好上路，打著後日一早起身。不想今日在這裡遇見老爺，也是天緣湊巧，不然一定差過去了。(14.14a.9)
- [日前2] (この間) 姑娘道：我怎麼日前換了衣裳又叫換衣裳啊。(27.20a.10)
- [前日25] (この間) 說道：哦還有件事前日我在上頭遇見偁們旗的卜德成卜三爺，趕著給玉格提親。(2.2b.3)
- [少年29] (若者) 至於那人金馬，登玉堂，是少年朋友的事業，我過了景了。(1.11a.4)
- [年少2] (若者) 誰想安公子雖是個年少後生，卻生來的老成端正，一口咬定了幾句聖經賢傳，斷不入鬆。(10.2b.6)
- [生平4] (人の一生) 老爺道：不是，不是。我生平別無所好，就是好喝口紹興酒，可不知你老人家裡有這東西沒有。(15.7a.8)
- [平生19] (人の一生) 他既合安公子素昧平生，為甚麼挺身出來要攬這樁閒事。(5.10a.3)
- [事成2] (事を成し遂げる) 其實安公子不是不會說官話的人，或者說相貌也還端正，或者說舉止也還大方，都沒甚麼使不得。無奈他此時又盼事成，又怕事不成。(12.8b.8)
- [成事3] (事を成し遂げる) 老爺從門裡看見說：這一動手可就不成事了。(15.3a.4)
- [算計4] (考慮する、…するつもりである) 安太太道：我也正在這裡算計著呢，這天一定是得在城裡頭住下的了，就著這一盪就各處看看親戚，道道乏去。(29.22b.9)
- [計算8] (考慮する、…するつもりである) 起身之後，先一步進城到墳園料理一應事件。又計算到靈槓從通州馬頭起身，一路到西山雙鳳村，一天斷不能到，早有張進寶等在德勝關一帶預備下下處，安靈住宿。(23.7b.6)
- [算計2] (計算する) 那位姑娘，今年算計著是十九歲，屬龍的，三月初三日生的，時辰奴才可記不准了。(14.4a.1)
- [計算3] (計算する) 止知合著地價計算租子，再不想這一畝地有多大出息兒。(33.13b.2)
- [雖然52] (…にもかかわらず) 及至細看，纔看出他合十三妹面目雖然相仿，精神迥不相同。(17.2b.1)
- [然雖8] (…にもかかわらず) 然雖如此，列公卻又切莫認作不過一番空談，後面自有實事，把他輕輕放過去。(16.18a.1)
- [土地7] (土地、田畑) 是個清官，又是官犯，不會下在監裡，就安頓在監門裡一個土地詞居住。(2.18a.2)
- [地土4] (土地、田畑) 別的不打緊，這銀子可是你拿性命換來的，好容易到了地土了，咱們保重些好。(12.10b.2)
- [往來5] = [往來] (行き来する、付き合う) 又聽他往下說道：我從作女孩兒的時候，合他兩個人往來最為親密，雖是這等親密，他的根底他可絕口不提。(14.20a.2)
- [來往25] (行き来する、付き合う) 大道正路不妨，十裡一墩，五裡一堡，還有來往的行人，背道須要小心。(3.18a.10)
- [物事1] (ものごと) 這頭驢兒這驢兒日行五百裡，但遇著歹人，或者異怪物事，他便咆哮不止，真真是個神物。因此任我所為，就把個紅粉的家風，作成個綠林的變相。(8.11b.1)
- [事物2] (ものごと) 看了事物的當然情理，覺得尋常，定要另走一路，必致於漸入乖張。(19.7a.9)
- [閒空2] = [閑空] (暇) 老爺得些閒空便先打發了鄧九公的來人又給他父女帶去些人事。(23.17b.10)
- [閒空3] (暇) 住了今日這家請講會，便是明日那個請閑遊，把個公子應酬得沒些空閑。(38.5b.6)

- [閑身 3] (暇) 朝日弄晴，雲斂山清，草拈人健。安老爺此時偷得閑身，倍覺胸中暢快。(14.5b.6)
- [身閑 3] = [身閑] (暇) 時且不必談，等我事畢身閑，再慢慢的說明。(13.5a.10)
- [心酸 2] (悲しい、つらい) 何小姐此時起起他父親來，未免一陣心酸，眼圈兒一紅，只是在公婆跟前不好悲泣。(36.4a.9)
- [酸心 5] (悲しい、つらい) 不由得一陣酸心，兩行熱淚。公子也嗚咽惶恐個不住。(12.18b.3)
- [心細 5] (細かい所まで気が付く) 何小姐聽了益發覺得他情真心細，自是暗合心意。(29.19a.5)
- [細心 1] (細かい所まで気が付く) 這要擱在我家鄉，聘十個女兒也用不了，卻是姐姐不叫我空手兒進婆家門兒的一番細心。(26.22a.4)
- [心願 6] (願い) 還了了我們何家姑奶奶這麼一個大心願，又合老弟你多結了一重緣法，真是萬般都有個定數。(32.13a.8)
- [願心 5] (願い) 我倆可就給你念了幾聲佛，許了個願心：我老伴兒他許的是逢山朝頂，兒廟磕頭。(21.9a.1)
- [姓名 32] (姓名) 到了住宅，早有部裡長班送信，告知老爺中在第幾房，並房師的官銜，姓名，科分，住處。(1.11b.7)
- [名姓 10] (姓名) 因是首縣薦的，便先問了問他的名姓。(2.9b.5)
- [尋找 3] (探す) 列公，你道他為何在棹子，牀下尋找起來。(7.3b.4)
- [找尋 2] (探す) 公子又怎的在廟裡落下一塊福硯，十三妹他怎的應許找尋，並說送這雕弓取那寶硯，自己怎的感他情意，因此辭官親身尋訪的話，從頭至尾說了一遍。(16.11a.8)
- [要緊 70] (重要である) 只是欽差究竟為著何事而來，不能曉得。這正是首縣第一樁要緊差使，為得是打聽明白，好去答應上司。是個美差。(13.7a.8)
- [緊要 14] (重要である) 倒是烏大人先開口說道：此來沒甚麼緊要事。(13.8a.2)
- [鹽米 1] (塩を米、日常生活に必要なもの) 金鳳媳婦是個細膩風光，便叫他料量鹽米。(33.19a.10)
- [米鹽 2] (塩を米、日常生活に必要なもの) 安太太又是個勤儉當家的人，每日帶了僕婦侍婢料理針線，調停米鹽。(1.4b.6)
- [意旨 2] (意図) 便是我說書的說來說去，也只看得個熱鬧，到今日還不曾看出他的意旨在那裡呢。(26.17a.6)
- [旨意 12] (意図) 知縣少時引見一散，傳下這旨意來。(1.12b.3)
- [語言 3] (言葉) 那穿紅的女子見他這等的語言無味，面目可憎，那怒氣已是按納不住。(7.13b.7)
- [言語 38] (言葉) 此時安公子被十三妹一番言語，問得閉口無言，只有垂淚。(8.17b.8)
- [葬埋 1] (埋葬する) 只這找地立墳，以至葬埋封樹，豈是件容易事。(19.6a.2)
- [埋葬 1] (埋葬する) 誰想他遭了這樣大事，哀也不舉，靈也不守，孝也不穿，打算停靈七天，就在這山中埋葬，葬後他便要遠走高飛。(14.20a.7)
- [爪牙 1] (悪人の一味) 夫人，你不見那後邊的許多人，便都是這班兒牽引的線索，護衛的爪牙。(緣起首回.5a.4)
- [牙爪 3] (悪人の一味) 其餘的屍身，講不起費些事，刨個坑兒，把他們一埋，眼前都是太老爺的牙爪，誰敢不尊。(11.6a.8)
- [重輕 1] (適当な限度、程合い) 顧先生道：你且莫絮叨叨的問這些無足重輕的閒事。(18.16a.9)
- [輕重 3] (適当な限度、程合い) 但是這事卻要作得機密，雖說你這時沒外人，萬一這些小孩子們出去，

不知輕重，露個一半句，那姑娘又神道，儻被他預先知覺了，於事大為無益。(16.16b.8)

[裝束7] (身なり) 雖然是個家常裝束，卻是滿面春風，週身大雅。(12.11a.6)

[束裝1] (身なり) 原來張姑娘見婆婆這等束裝。正恐自己也須改裝，這一改，兩隻腳踏踏踏踏的，倒走不上來，今聽如此說，自是放心。(12.14a.4)

※本稿の骨子は2014年12月6日[日本中国語学会九州支部冬季例会]で報告した。席上，多くの貴重なお意見を賜り茲処に謝意を表します。

#### [主要参考文献]

白维国，《白话小说语言词典》，商务印书馆，2011年。

许宝华，宫田一郎，《汉语方言大词典》(全5册)，中华书局，1996年。

《汉语拼音词汇》编写组，《汉语拼音词汇》(1989年重编本)，语文出版社，1991年。

香坂順一，『白話語彙の研究』，光生館，1983年。

香坂順一，『《水滸》語彙と現代語』，光生館，1995年。

香坂順一，『《水滸》語彙の研究』光生館，1987年。

Flip-flop Disyllable Words in *Xingshi Yinyuan Zhuan* and  
*ErnüYingxiong Zhuan*

Shi Liangliang

Chinese words' development from monosyllables to disyllables is a major feature of Classical Chinese developing to modern Chinese and contemporary Chinese. Morpheme A and morpheme B can be compounded in more than one way, such as flip-flop disyllable words like AB-BA. This essay studies two typical works *Xingshi Yinyuan Zhuan* and *ErnüYingxiong Zhuan* for the reasons that in the aspect of language research value, *Xingshi Yinyuan Zhuan* is the most typical vernacular novel in the north in the early Qing Dynasty and *ErnüYingxiong Zhuan*'s narrative language and spoken language are Beijing dialect, the most typical dialect of northern dialects in the late Qing Dynasty. They play an important role in studying the difference between contemporary Chinese and Beijing dialect in the Qing Dynasty and studying the historical development of language, especially northern mandarin Chinese. This essay collects the flip-flop disyllable words appeared in the two works.